

分野： (1) 小児・成人ぜん息に関する調査  
 ① 小児ぜん息のハイリスク群を鑑別するための評価手法とフォローアップ指導法の検討

(1)-①

申請課題名：小児ぜん息のハイリスク群を鑑別するための評価手法とフォローアップ指導法の検討

調査研究代表者氏名：望月博之

| 1 評価項目   |    |    |    |    |    |      |
|--|----|----|----|----|----|------|
| 5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定) |    |    |    |    |    |      |
|  | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点  |
| (1) 環境保健対策の推進への貢献度   | 0人 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 3.17 |
| (2) 研究成果目標の達成度   | 0人 | 2人 | 2人 | 2人 | 0人 | 3.00 |
| (3) 研究計画の妥当性   | 1人 | 1人 | 3人 | 1人 | 0人 | 3.33 |
| (4) 研究内容の独自性   | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | 0人 | 3.83 |
| (5) 社会・経済に対する貢献度   | 0人 | 2人 | 3人 | 1人 | 0人 | 3.17 |
| 個別評価(第3評価):(1)(2)(4)(5)の平均   |    |    |    |    |    | 3.29 |
| (6) 総合評価(第2評価)   | 0人 | 3人 | 2人 | 1人 | 0人 | 3.33 |
| 全体評価(第1評価):(1)~(6)の平均  |    |    |    |    |    | 3.31 |

| 2 記述評価  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・RSV感染がパリヒズマブの普及で新生児・乳児の感染防御ができるようになったという大きなバイアスがかかったことは研究完成にとって残念でした。</li> <li>・β吸入前後9名しかデータが取れなかった。</li> <li>・13年間の成果として一定の評価ができる。</li> <li>・乳幼児の喘息ハイリスク群の評価法とフォローアップ指導法作成が課題で、その中心が肺音解析である。</li> <li>・独自性はあるが、達成度は十分かどうか。</li> <li>・本研究の中心である肺音解析は、今後、十分に活用が可能かどうかの判断が、改めて求められる。またどのように活用するか。</li> <li>・SARS-Cov-2感染症蔓延という逆境において、一定の研究成果が得られている。今後は、保険適応申請を考慮してもよいのではないと思われる。</li> <li>・肺音解析に関する現状レベルでは環境保健対策に寄与する段階に至っていないと考えられる。</li> <li>・小児ぜん息の新たな評価法にチャレンジしたことは評価できる。新型コロナウイルスの蔓延もあって所期の目標が十分に達成できなかったことは残念である。</li> </ul> |